

- 特定非営利活動法人Uは、正社員が約20名、パート社員が約5名の福祉事業所である。シルバー人材センターからの紹介者や派遣社員の方を合わせると、常時約50名程度が勤務している。
- 障がい者の就労支援を主な目的としていることから、正社員にとっての業務内容は、障がい者とともに勤務を行い、その過程で障がい者に就労のために必要な知識・スキルを指導したり、相談に応じたりすることである。指導対象の障がい者数は時期により変動するが、50名程度である。
- 業務内容は、その時々には様々な企業から委託される軽作業が中心であり、例えば野菜や佃煮のパッキングや、パンの製造、商品へのシール貼付などである。
- 同事業所では、他の企業をドロップアウトして勤務している20～30歳代の正社員が実に10名以上であるが、採用の際には、「自分のことを素直に話せる」ことを最重視している。特に、具体的には、「前の会社を辞めた際に、どうして辞めたのか」、「どのような失敗をしてしまって、それは何故だったのか」ということについて聞くようにしている。
- 採否の判断につながるのは、「前の企業の会社側・雇用主側の責任」と「自分の責任」の両方をちゃんと話せるか、ということである。「前の会社はひどくて…」と一方的に前の会社を非難するような人は採用しにくい。逆に、「前の会社はここが悪かったが、自分はここがよくなかったと思う」という人は、物事を多角的・客観的に見ることが出来ているし、自己反省もできているので、伸びが期待できる。
- 一方で逆に、「自分の信念を変えない人」は採用しにくいと感じている。自分にこだわりがありすぎると、周りに溶け込むことができなったり、仕事内容によってすぐ嫌になってしまったりするからである。「自分の考えに固執しすぎる人」は、自分の考え方が正しいと信じるあまり、ほかの人を理解しようとしなかったり、やり方を知らず強制してしまっていたりするので、障がいを持った方の指導・支援をするのには向かないようにも感じている。